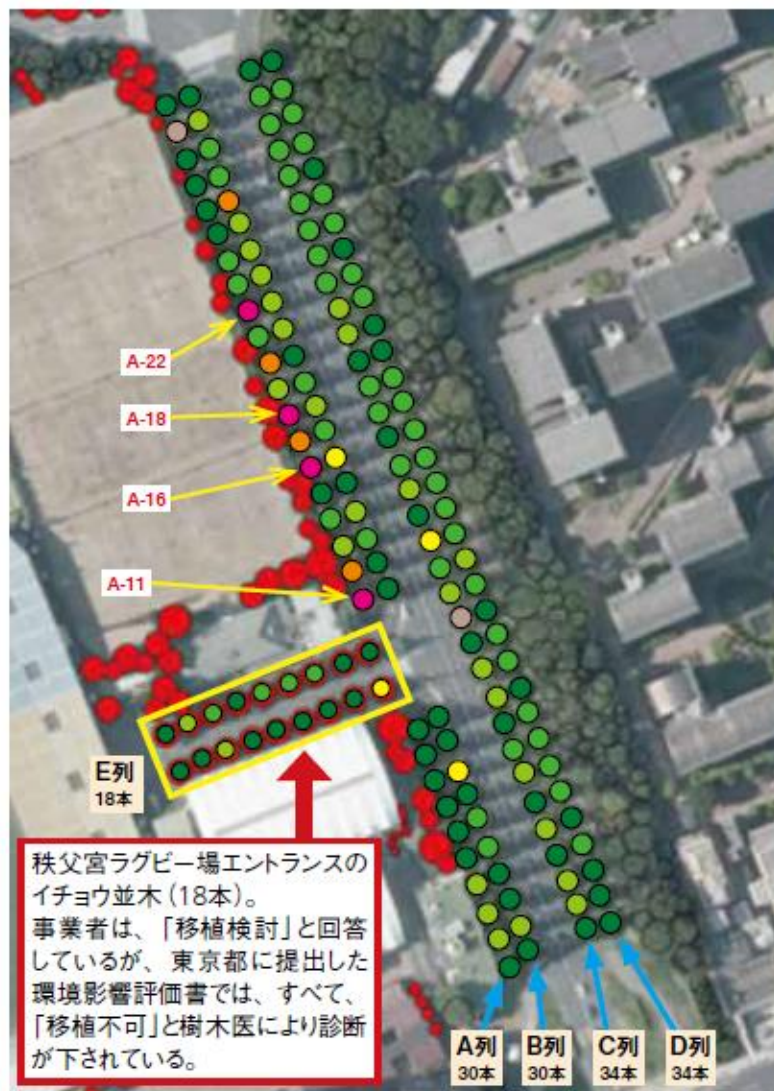


日本イコモス記者会見資料 2024年 9月24日

2023年11月調査

評価	本数	内容
健全	a+ ●	48本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量、地上部の状況など、極めて良好であり、健全。
	a ●	56本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量、地上部の状況など、良好であり、健全。
	a- ●	28本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量、地上部の状況など、良好であるが、一部、生理的バランスの崩れ、剪定による樹形のバランスの崩れ、過度の利用等により問題が生じている。
良好	b ●	4本 樹形・樹勢は比較的良好であるが、先端部が枯損しており、今後の慎重な経過観察が必要である。個々の樹木の問題に対し、データ分析を行い、適切な維持管理方針の策定と実施が必要である。
要注意	c ●	4本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量など、衰退がみられ、今後、環境の変化により、生育に重大な問題が生じる可能性がある。現在の問題の分析を行い、イチョウの持続的生育のために、適切な維持管理施策の導入を早急に行う必要がある。
著しく枯損	d ●	4本 樹形・樹勢・先端部の状況・枝の伸長状況と緑量に大きな問題が生じており、一部では完全に枯損している部位が生じている。円錐形の外苑における「イチョウの樹形」を回復することは、不可能となっており、今後の対策について、検討が必要である。
梢の形態の著しい変化	e ●	2本 樹木全体は、概ね健全であるが、先端部の形状に著しい変化が生じており、外苑特有の「円錐型のイチョウ」の樹形を回復することは困難となっている。今後、樹形については、根本的な検討が必要である。
合計	146本	



2023年11月調査

並木 A 列	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
A-11 毎木調査番号 29	23.0	283	10.0	d 梢・樹幹枯損

2022年11月7日

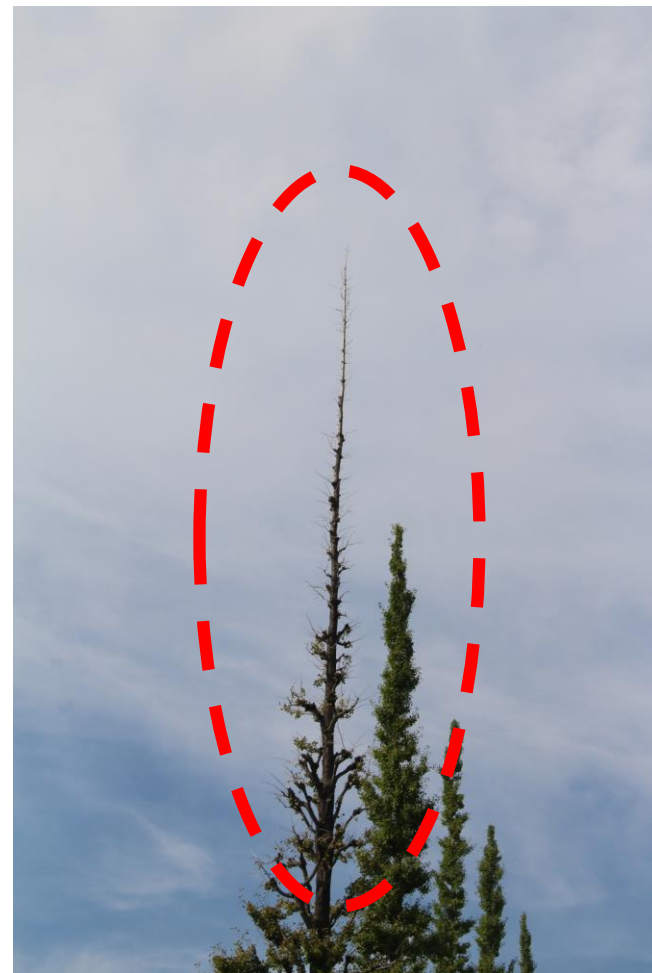
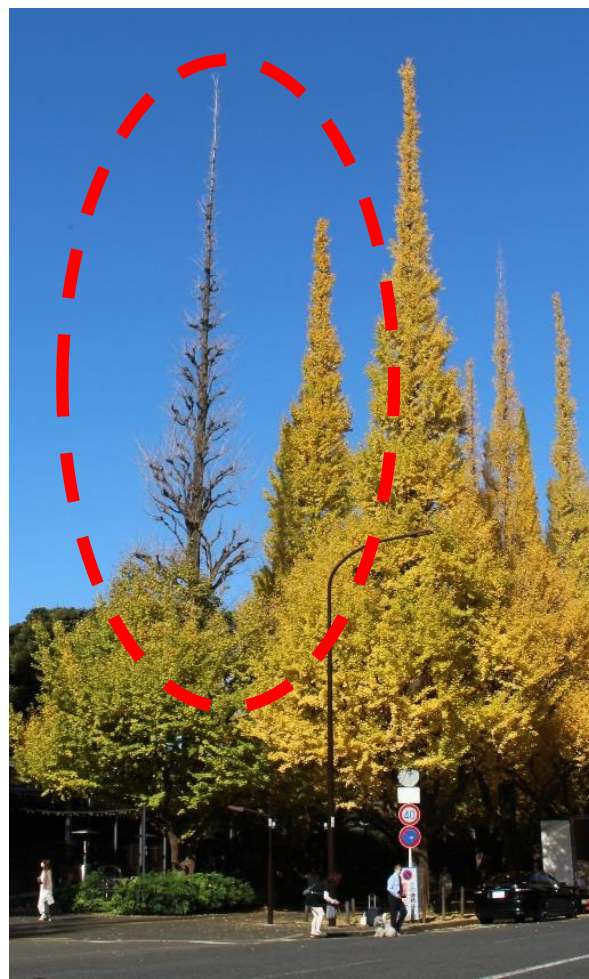
2024年9月19日

シェークシャック
前

2年前より、
さらに悪化

樹勢回復方法に
重大な欠陥

盛土の与える影
響が検討されて
おらず、改善が
行われていない。
イコモス、樹木
医、指摘済み



並木 A 列目 (青山口から絵画館 方向 左手より)	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m)	評価
A-22 毎木調査番号 40	24.0	215	10.0	C- 要注意

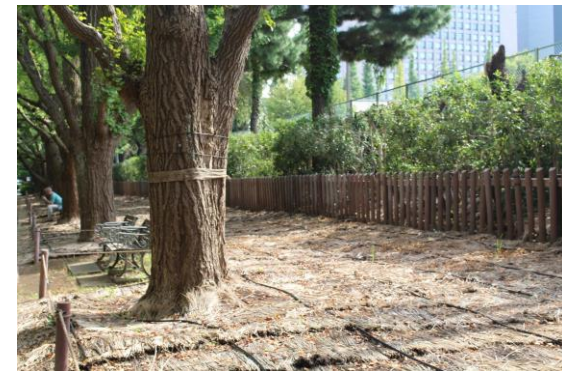
2022年 11月 7日

2023年 7月 27日

2024年 9月 19日
更に悪化



灌水

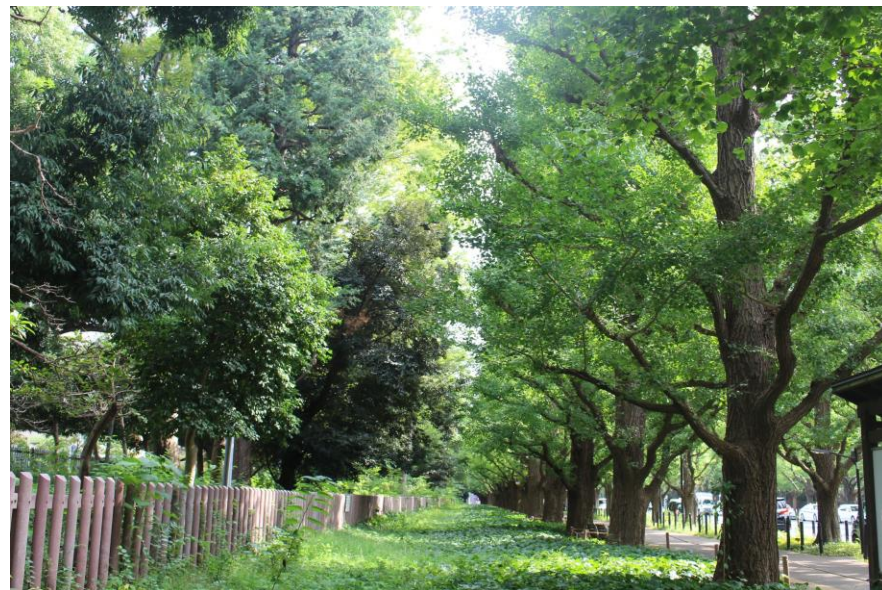


衰退したイチョウの回復方法に重大な問題

- ①一本一本のイチョウの病状を考慮しない画一的施工
- ②生物多様性への配慮が皆無
- ③いちょう並木東側の現存植生に全く学んでいない。
正しい植生調査が行われなかったため、回復の基準を認識していない。
- ④至急、見直し、検討が必要

西側
画一的施工、
生物多様性皆無

東側
立地の多様性を反映
生物多様性の宝庫
現存植生調査が行われていれば、
指針ができる



東京都の猛暑日（推移）

2020年～2023年（各6月～9月）

